

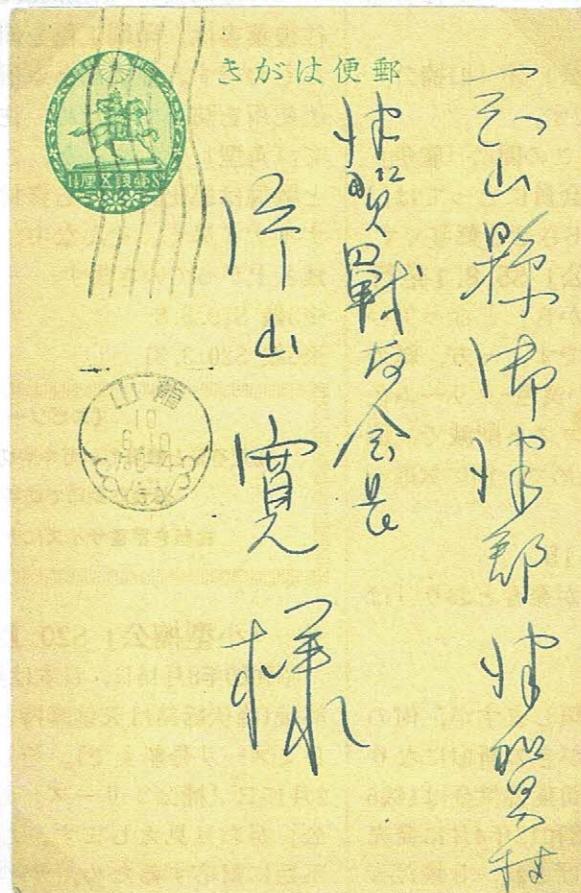
145

# 長崎郵趣

2018.5.20

濁点捺公

1933(昭和8)、2.15. 凸版 うす黄色紙あるいは黄色紙.



PC 31 15銭 青緑、うす黄色紙

日本の葉書② 江頭達雄

「点なし捺公」の横画文字だけを「はむき」と「はびき」に改めたもの。その他の様式は「点なし捺公」と全く変わらないが、用紙の紙色が初期のうす黄色から次第に黄赤を増し、後期になると、旧捺公「はむき」と同じ黄色紙になつている。

# 日本の葉書②～楠公葉書から戦後初期～

江頭達雄

今回は楠公葉書から戦後初期の時代の葉書です。切手では、新版田沢切手の時代から新昭和切手の時代になります。

## ◎楠公葉書

図案は、皇居外苑に在る「楠木正成」の銅像です。この図案の葉書は終戦後「桜葉書」が発行されるまで実に16年の長きに亘って発行されました。印面のデザイン・料金・紙の質・色合い・サイズなどにより五つのグループに分類されます。

- ①「点なし楠公」②「濁点楠公」③「旧楠公」
- ④「新楠公」⑤「小型楠公」です。

さまざまな変化があるのは、この間に「戦争」はさんでいるからで、高齢の会員にとって、「あの頃のさまざま」を思い出させる葉書です。

### 1 楠公葉書「点なし楠公」S5.8.1発行

お判りのように、「郵便はがき」となっています。文字通り「濁点なし」です。一方、紙の色が、これ以前の白色から淡い黄色-クリーム色に変わっていますが、これはコスト削減で、原紙を漂白する工程を省略したためで、別に気取った訳ではないそうです。

### 2 「濁点有り楠公」S8.2.15

3年後「郵便はがき」の表示が発音どおり「はがき」になります。

### 3 「旧楠公」S12.4.1

この葉書から、新と旧に分類しますが、何の新旧かと言いますと、2銭はがきの新旧になります。明治32年以来延々38年間葉書料金は1銭5厘で据え置かれてきたのに、昭和12年4月に発売されたこの葉書は、2銭に値上げされ、3銭だった往復葉書は4銭になりました。昭和11年満洲事変を端緒として戦争の時代に突入。この頃から巨額の軍事負担が国民生活に影響を及ぼすようになりました。

### 4 「新楠公」S12.8.1

「旧楠公」発行の僅か4ヶ月後、新様式の葉書に改められます。ズバリ、「程度を落とす」の

です。改正点のポイントは「楕円の縁取り部分の単純化」ですが、厚手の良質紙だった用紙も次第に薄くなり、色も含めて、ジワジワと質が低下してきます。この後、昭和20年の「小型楠公」まで、8年間もこの「新楠公」図案の葉書が使われます。紙の質・紙の色・刷色など日本の国力がジワジワと低下していく過程が手に取るように分かります。

「片面楠公」(S18.12.23) 例えば、この4銭往復葉書は、印刷工程を簡略化した結果生まれたものです。往復部と返信部を明確に区別し、誤使用を防止するため、往復部の印刷枠を初めて「角型」としました。この後、昭和19、20年と戦局は悪化。人手も資材も、とにかく全てがナイナイ尽く。そんな中、料金だけが、3銭、5銭と上がっていきます。

※3銭 S19.5.8

※5銭 S20.3.31

#### 【エピソード】

物資不足と戦災でハガキや切手が手に入らない！

料金収納印で切手不足に対応

白紙を葉書サイズにカットしてもOK!

### 5 「小型楠公」S20.12.15

昭和20年8月15日、日本は無条件で戦闘を停止、終戦(降伏締結は天皇護持という有条件的で、9月2日ミズーリ号船上で)。そして、その4ヶ月後の12月15日「楠公シリーズ」の最後となる「小型楠公」がお目見えします。この葉書は極度の物資不足に対応するため、サイズを30パーセントほど小さくしたもので、発行そのものは、戦争中に計画されたと伝えられています。

A 印面「大」・題字「大」／印面「小」・題字「小」

B 印面「小」・題字「小」

印刷局だけではどうにもならず、民間会社4社も

製造に参加。このため、刷色・紙質・印面・題字にさまざまなバラエティが生じた。例えば、  
C 印面「小」・題字「中」  
というタイプもあります。

## ◎戦後初期の葉書

### 6 「桜葉書」 S21. 7. 20

軍国日本の象徴である「楠木正成」の葉書が戦後も使われるなど、占領下日本の最高統治GHQにしてみればとんでもない話。昭和22年8月31日限りで「使用禁止」になります。

一方、郵政当局も「それ以前に」に「平和的图案」の発行を模索していて、昭和21年7月20日、つまり終戦の約1年後には新しい5銭葉書を発行していました。

ところがなんと、発行わずか5日後の7月25日に料金が改正され、新しい葉書料金は5銭が一挙に15銭と3倍になって8月25日に再登場します。戦後の日本人を呆然とさせ、いろいろと苦しめた「インフレ時代の到来！」でした。

### 7 「稻東葉書」 S22. 5. 15

インフレはどんどん進行し、昭和22年4月1日、

15銭の葉書料金は、一挙に50銭に値上げされます。尤も製造が遅れに遅れたため、実際の登場は、値上げ発表1ヶ月半後の昭和22年5月15日でした。なお、国はしぶとくこの葉書まで菊花紋章を残しています。

### 8 「議事堂葉書」 (旧議事堂) S23. 9. 10

印面のデザインや紙質などが、かなり落ち着いて来ましたが、一向に落ち着かないのが「インフレ」。そこで葉書料金をドーンと4倍アップの2円とし、昭和23年9月10日から「議事堂葉書」を売り出しました。尤も、刷色の紫が「消印」が「見難い」というクレームが相次いだため、約1年半後の昭和25年6月1日、「薄い緑青」に改められました。

この後、「新議事堂」、「夢殿」と続き、料金も5円になります。そして、夢殿の終わりから7円に額面変更、7円「飛天葉書」、10円「土器」、20円「駅鈴」、30円「麻布菩薩」、40円「鳳凰」「東大寺鐘楼」、41円「鳥獸円鏡」と「銀竜～」と続き平成6(1994)年の「オシドリ」で50円の時代に入る。以下略。

旧 楠公・顎面変更

1937(昭和12). 4. 1. 凸版、薄手洋紙 90x140mm

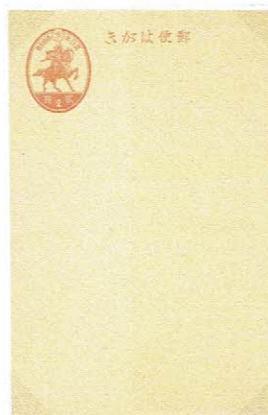


PC 33 2銭 茶

1937(昭和12)4月1日、1899年(明治32)4月1日以来38年間にわたりて書き置かれていた「公の葉書料金が2銭に嵩上げされたので問い合わせ、印面は頭は見えのまゝ、お顔の顎だけを取て新しく作成されました。その4ヶ月後(即ち1937年5月15日)に改めて「新顎面の葉書」と呼んで販売している。このお顎面の頭正方形用紙は、8月1日までの今まで使っていた、二つの頭の頭正方形用紙に少ない。

新 楠公

1937(昭和12). 8. 1. 凸版、厚手クリーム紙(PC35a),薄手クリーム紙、赤白紙、90x140mm



PC 35 2銭 茶、厚手クリーム紙



厚手クリーム紙(大面)

### 片面 楠 公

1943(昭和18).12.23. 凸版、灰白油紙、90×140ミリ



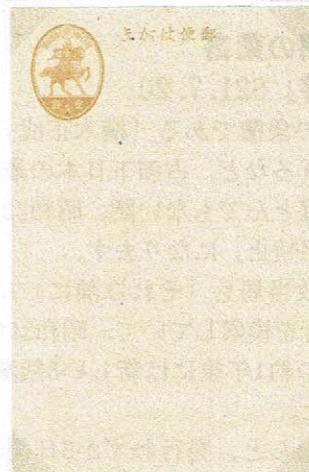
PC 37 2銘 + 2銘 こい青

1943年(昭和18)12月23日、東京の通函に付いては最初から封印税を添付せずに片面 楠公(ゆめのき)が使用された。その後、各機関と取扱局の名前を強制的に記入する旨の通達が発令され、以後は封印税を貼付する旨の通達が発令されている。3ヶ月後(1944年3月)に改めて3銘+2銘(信)に変更されたが、3銘+2銘(信)はひだりこの方先が用いられた。

### 3 銀 楠 公

1944(昭和19)

凸版、灰白油紙、90×140ミリ



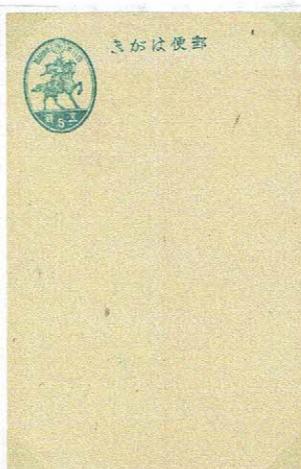
PC 38 3銘 こい青 ('44.5.3)

1944年(昭和19)4月1日、はさき郵便10銭が追加された。しかし、新料金のかけはな料金改正日には間に合はず、番頭ねぎ(3銘+2銘)は翌5月8日、逆はねぎ(6銘+2銘)は7月5日になって、初めてなまめ施行された。

### 5 銀 大型 楠 公

1945(昭和20).3.31. 凸版または平板、白紙、灰白紙、縦線、

90×140ミリ



PC 40 5銘 こい青 灰白紙

1945年(昭和20)4月1日に、ふたじめ度料金が改正された。はさき郵便は3銘から5銘に変更され、新料金のはねぎ(5銘+2銘)は老のもの(昭和19年3月31日)という規制の算さで発行された。

### 小型 楠 公

1945(昭和20).12.15. 凸版または平板、白紙、灰白紙、うす茶紙(ゆか)

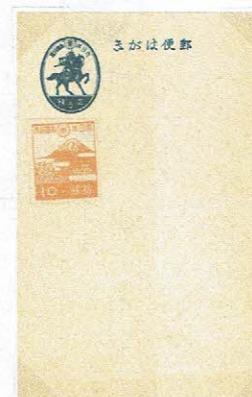
70×120ミリ

印面大・題字大(題字横幅28ミリ)

印面小・題字小(題字横幅22.5ミリ)  
~23ミリ



PC 41 5銘 こい青 灰白紙(凸)



PC 42 5銘 こい青 うす茶紙

1945年(昭和20)に入ると其手の郵便の取扱はますます简化し、印面用紙や資材も著しく不足してしまため用紙記載の済みとして、はねぎ+灰白紙は大幅に縮めた用紙を販売することにした。しかし、實際に販売されたのは、取扱後の翌年(昭和21)5月で、しかも翌年行なわれた新規案では、はねぎの大費削減が実現されたからである。

### 印面小・墨字小(郵便標 242)



PC 42 5銭 青 うす赤絵 邮便 242



PC 42 5銭 青 墨字 242

PC 41~48 は印刷の青、田淵製本社で4枚刷り。 ( PC 41:印刷青、共同印刷、北洋印刷、PC 42~43:文部省印、トキワ印刷 ) それ以外は赤絵、印面や墨字などにさかざなを施すエディが添え。

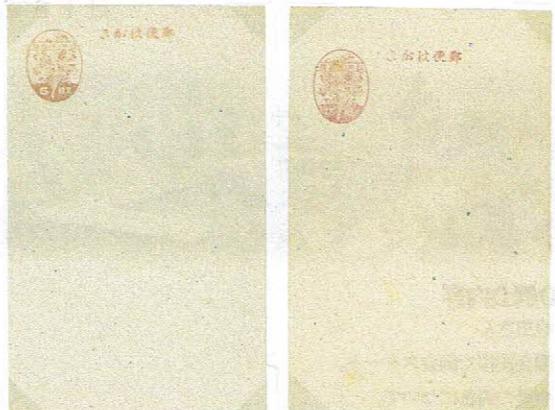
※ 電気平均30枚 : タ2次大半切紙、切手裏や封筒裏が全額的に不規則であり、各類はがきの切手額が依然として同じ料金割引も持つて、割引の割合そのまゝ差し出せるようにしたのであり、これより「普通手形はがき」と呼ばれていた。

### 桜はがき

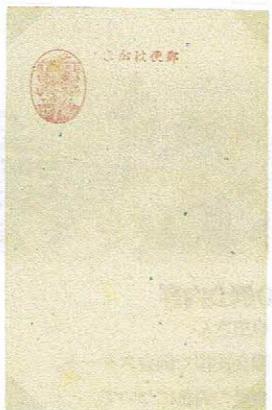
1930年(昭和5)以降開拓された一連の新公有地は、占領統治部の命令で1947年(昭和22)8月31日限りで改称された。

一方連合軍では、それが第二次世界の大戦終結後も地元の行政機関のために実施することを禁め、1946年(昭和21)7月8日の新公有地令で同年20日から新規の新公有地を発行した。しかし、改称まで現行の8月の丁度25日には新規料金が既に改定されて一連のものとなってしまった。

1946年(昭和21)8月25日新規の新公有地料金が既に改定され、(8月25日施行)新規の新公有地を発行した。(8月25日新規の新公有地から1ヶ月遅れて発行された。



PC 44 5銭 うす赤絵 (昭和22.7.20)



PC 45 15銭 うす赤絵 (昭和22.8.25)

### 稻東はがき

監視後の一インフレに伴い郵便料金は大幅値上げを余儀なくされて、1947年(昭和22)4月1日に割引は30銭から1円20銭に、また50銭は15銭から20銭に改正された。しかし、新料金前の50銭は50銭の割引までには間に合はず、値上げから1ヶ月半後の5月15日になってようやく発行された。(5月10日発表第170号) この内訳は第1回改入の最後のものである。

1947年(昭和22), 5.15 凸版、灰白緑郵便はがき、90×140mm



PC 47 50銭 灰白緑

### 議事堂はがき

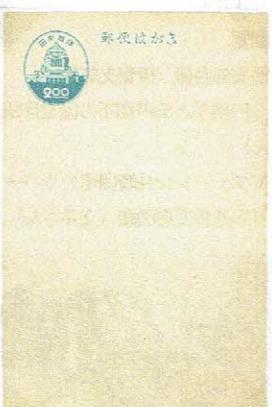
平成のインフレがまだ深刻しないが、郵便料金もさらに値上げする事が注目。1948年(昭和23)7月10日には、凸版はがきをこれまでの50銭から4倍の2円に改め、新規発行の2円は新規改定料金は2.5銭(0.98円)の日本たって発行された。新色で替り切る際の新規改定料金とため、発行後は年わたたな、翌1949年6月1日には、新色がより新規に変更された。

### 旧議事堂はがき

1948-5(昭和23-6) 凸版はがき(PC 49c, 49f)、E面寸法: 22×25mm(横) 合成紙、灰白緑郵便はがき、90×140mm



PC 49 2円 紙 (昭和23.6.1)



PC 50 2円 うす赤絵 (昭和23.6.1)